

13
2237
24

繪本列戰功記後篇卷之十二

目錄

上うへ抄しやう信しん遊ゆう去き之の事こと

奇き石せき岡おか凶きよう氣き示し圖ず

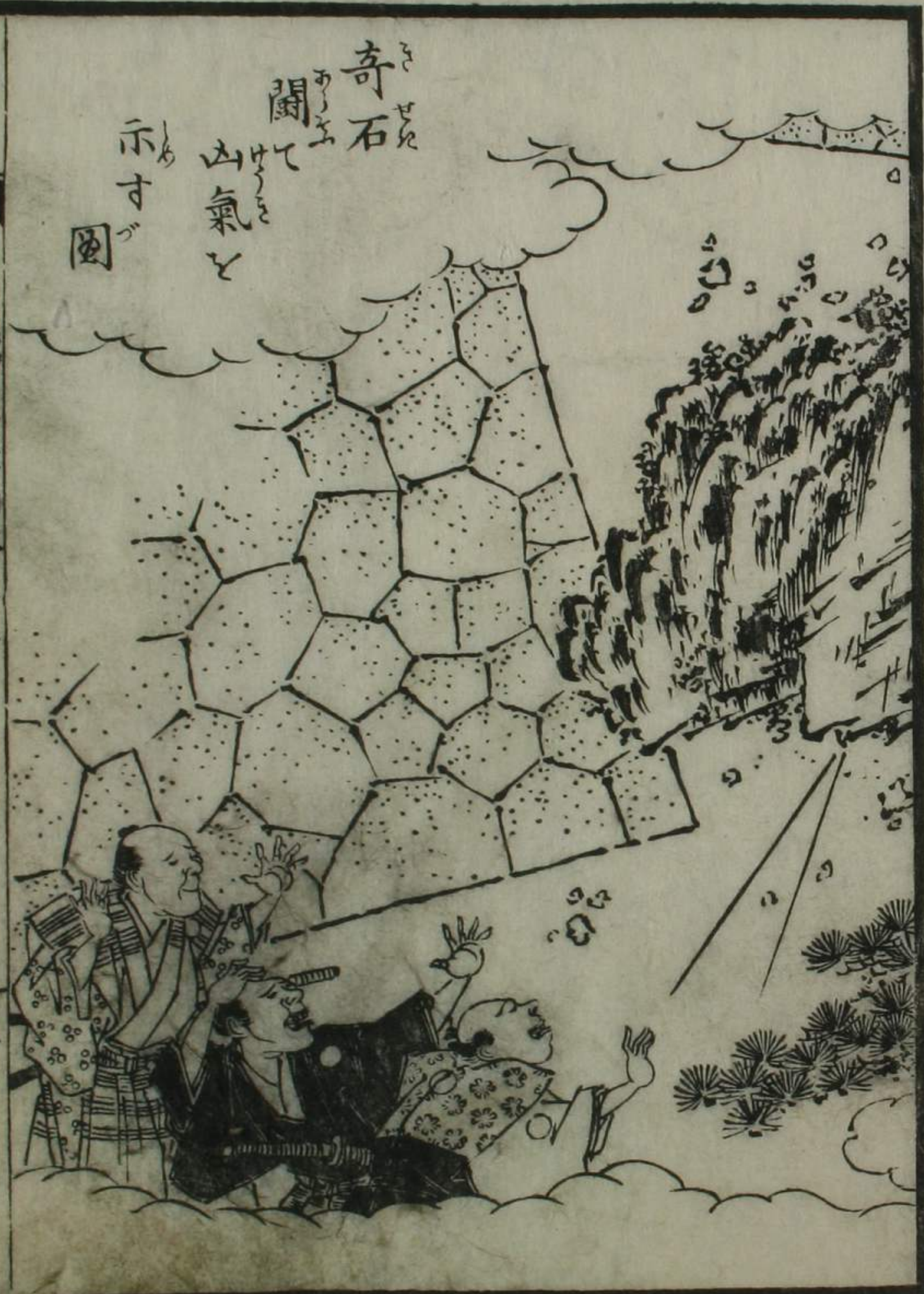
景けい虎こ景けい勝しょう確かく執しやく并な越えつ後ご騷さう動どう之の事こと

上うへ條じょう義ぎ春しゆん武ぶ勇ゆう之の事こと并な仙せん桃とう院いん勇ゆう義ぎ之の事こと

武ぶ田でん勝しょう頼らい破ぱ上うへ抄しやう勢せい之の事こと

母はは藤とう朝あさ信しん智ち畧りやく之の事こと并な武ぶ田でん勝しょう頼らい飯い陣じん之の事こと

勝しょう頼らい上うへ抄しやう家け之の使し者しや對たい面めん之の圖ず



系虎系勝確執并越後隆勅之事
 不滅院殿後任存生の前ハ。持戒潔斎して女色と禁られし中
 実子と云ふ事。別御尊する長尾越前守政宗が二男。長平治
 系勝と云ふ子とあり是れける。子後又小糸氏安の七男と云
 るとあり。二良系虎と名をせ。系勝が妹と云ふ是又妻せ継ぐ
 家督お續の約束あり。春日山二丸と云ふ事れける。又長平
 治系勝ハ。けしは二の丸と居りける。後任逝去早し系虎
 江山城守兼總。本庄越前守兼長。長尾隆四郎系勝等
 の長臣。密に又後去ける。横ハ。敵の遺跡のハ。も系虎たる
 べたされども。是小糸家よりのもたれり。尚家血脉と
 あり。是と舎兄氏政。別御の倭人と云ふ。系虎家督

と云れり。越後後小と氏政の老とあり。わんて必ま
 越前守の徳士ハ。皆彼家の被官の如。是上後任公若幸より
 公方と云。代結めいり玉と。長上枝の雙歌より小糸あり
 ねん。と云ふ事。又長平治殿と云ふ。後任公の甥と云
 長尾の血脉あり。武村の益量と云ふ人ハ。是と守まんと尚
 家祖先への忠功也。四家のあり。身以長平治系勝家督
 可也。と云。衆後一變してけれ。先上條氏初を捕殺し。又云
 九と云。と云。系虎系勝三の丸と云。系勝は内院と云
 示合せて。後小入く密に系勝と本丸と云。又と田の城より
 城代藏上野介。栗林肥前守と云。大に搦ま守せ。密
 密防院の准後と云。けり。此事他若の半たれ。系虎方

此の是と承知兵喪と守てぞ居たりける。秋て夫と交束て六月
 三日。後佐の忌明と申ければ。三日。京虎へ。茶後領上。秋憲政
 入及立山の内法にて。若又後佐立世の時より。家督約束の事
 されば。京虎等。早く本丸へ引移り。あつんとぞ云出されり。後
 上。秋家の長尾等。頭と集令。命。降後及及びければ。兎南
 少条家と忌怪る志多。あつと。一。後一。交。彼。是。本。日
 と。經。然。上。表。平。治。京。勝。本。丸。又。早。後。佐。お。傳。乃
 併。地。又。日。の。丸。の。大。四。半。の。旗。と。推。立。究。強。の。兵。共。矢。念。こ。こ。ま
 見。れ。二。の。丸。と。眼。り。より。ん。中。大。筒。と。お。懸。と。頻。り。三。良。京。虎
 大。又。後。秋。あ。つ。と。い。ひ。も。あ。つ。と。防。戦。の。准。後。も。あ。つ。と。下。作。又
 怪。果。て。近。居。等。も。防。戦。り。ん。と。い。圍。先。三。良。京。虎。交。束。り。る。息

之に後

果

道万丸と守護而。二の丸と立退。茶後領上秋憲政入及立山
 の居城。有内及立山の。内。秋。の。城。へ。ぞ。落。り。け。り。は。秋。の。城。の。城。へ
 夫日山より。い。僕。又。一。里。中。と。隔。り。秋。て。い。發。動。早。中。の
 守。り。け。れ。ば。京。勝。が。所。約。甚。久。五。尺。也。と。是。と。為。上。秋。十。三
 憲。宗。と。始。り。て。少。条。丹。後。守。長。本。庄。兵。能。也。又。交。束。り。る。事。家
 主。水。長。尾。梅。之。等。も。熱。勢。一。万。餘。騎。り。て。三。良。京。虎。を。地。加
 り。又。中。條。家。と。忌。怪。り。ん。京。勝。が。地。城。も。亦。て。在。り。あ。り。し
 あり。と。い。ひ。を。引。て。夫。日。山。へ。馳。付。り。給。骨。と。言。ふ。事。人。と。進
 去。り。け。り。是。は。四。中。二。丸。を。東。西。南。北。付。り。馳。進。し。鄰。里。郷。黨。也。異
 越。の。思。ひ。と。あ。り。て。五。尺。也。と。い。ひ。強。勁。大。也。と。い。ひ。

上條春武常三事 兵仙桃院常武三事

果

後佐十四歳よりして。心カと毒。我兵を起て十六歳の去。宥
 敵長尾平六とて。逆城共を平け。八津のらふ越中と
 平均。まより以来。上下拵と泰山の安れ措。是皆後佐の
 勲功也。是と今。血脈を中。往々他又領せし人。一玉
 の恥辱するべや。依て後佐の遺跡。系勝は初。各心と致
 して。味方の我敵と依。中興の勲功を起しこれよ。中興
 比自と奉勲。二心と拵。又ハ我場。敵は推分とらん。は情
 以事るれば。何事も上と出精の程。我ハ中興と。家老より
 末のの兵士と。不殘。益と場。ければ。上下共。け女條の常
 以勵され。皆威候と拵。高直。敵を守ま。於忠功と勵。こ
 休るるべし。一同よ。五と云。心と全。織のめ。あけけ

前

あはし

ける程。本丸の軍勢。自然様と接て。系務方。危くぞん
 たりける。是又系勝の母儀。仙桃院。中興。後佐の物。と云
 越中。政宗が後室。ころ。系務。骨列の婦人。と云。お
 ければ。系務方。後佐。及。と云。急上田の城。と云。系
 夫。田山。入城。して。越中。一族。家臣。未。ふ。あ。り。す。と。召。集
 内。慮。する。と。拵。と。云。せ。對。面。む。と。云。これ。け。け。る。系。勝。の。越。中
 守。政。宗。が。あ。と。云。や。ら。う。と。云。後。佐。既。又。告。る。と。云。後。佐。は。推。し
 も。な。知。の。こ。と。ら。う。と。云。拵。先。祖。長。尾。を。傳。の。耐。系。忠。と。云。後。佐。は。推
 ま。で。代。ハ。八。代。年。二。百。十。余。年。を。方。越。中。の。執。權。と。云。半。城
 作。又。千。周。法。と。云。後。中。興。好。と。云。丸。珠。又。先。考。後。竹。菴
 至。為。系。越。中。平。壇。形。と。云。於。付。死。逃。と。云。中。興。大。乱。及。下。と。云

列傳

一七

河内

挟

春日山へ兵を遣はすと。勝れ糧威と合で待居りければ。上杉系勝
 初とす。武田の援兵ごらんされ。國又是と又備せとて。並
 又兵と列。須田大炊介長茂。松原孝隆介親憲。安田上総介
 順易と先をじて。そ勢二万三千餘騎。春日山を推却して。飯山又
 依る。武田勢も付てかると。武田の懸兵も飯原も。る場
 民が痛。各若きといひ。智常共。又方らるる。害われ。二千
 餘騎とん。是も高り。些も座せぬ。形勢。飯の立方。佐左
 世も。進め。破舟の如く。騎兵歩率。も足と。おんが如已
 て。越後の伎。又飯と切崩せ。上杉方。戦負て引退。初て。飯日
 と。再系勝旗布とん。先と。飯。上杉。佐左。の飯とん
 推束と。甲。以。方。あ。上。飯。勢。系。集。人。代。四。千。餘。人。とん

二にれ。飯田山と押中。系が軍勢二千人。系勝が六人
 餘人と。飯り合。入。乱。て。戦。入。あ。と。去。飯。勢。二。千。と。ん。萬。つ。け
 左。右。より。排。撃。上。杉。勢。を。め。つ。れ。と。と。と。飯。系。安。田。が。勢
 上。杉。推。却。却。上。杉。を。め。つ。れ。と。と。と。飯。系。安。田。が。勢
 中。上。杉。付。と。と。と。飯。系。安。田。が。勢
 進。上。杉。先。又。系。入。猛。勢。鐵。石。と。も。碎。べ。く。山。と。も。裂。べ。れ。旗。布
 の。勢。勢。一。同。又。萬。人。と。奮。て。戦。入。あ。と。去。飯。勢。二。千。と。ん。萬。つ。け
 急。の。大。鼓。と。ら。ち。疾。焼。と。放。け。け。く。炮。煙。の。中。より。勢。先。と。捕。て。突。立
 れ。と。と。と。飯。系。安。田。が。勢
 守。と。と。と。飯。系。安。田。が。勢

母。辰。朝。佐。智。略。之。事。再。武。田。勝。於。飯。原。之。事

替

逞

春日山へ兵を遣はすと。勝れ糧威と合で待居りければ。上杉系勝
 初とす。武田の援兵ごらんされ。國又是と又備せとて。並
 又兵と列。須田大炊介長茂。松原孝隆介親憲。安田上総介
 順易と先をじて。そ勢二万三千餘騎。春日山を推却して。飯山又
 依る。武田勢も付てかると。武田の懸兵も飯原も。る場
 民が痛。各若きといひ。智常共。又方らるる。害われ。二千
 餘騎とん。是も高り。些も座せぬ。形勢。飯の立方。佐左
 世も。進め。破舟の如く。騎兵歩率。も足と。おんが如已
 て。越後の伎。又飯と切崩せ。上杉方。戦負て引退。初て。飯日
 と。再系勝旗布とん。先と。飯。上杉。佐左。の飯とん
 推束と。甲。以。方。あ。上。飯。勢。系。集。人。代。四。千。餘。人。とん

春日山城中に於て。飯山の義経軍ふる。予と小田原の援兵途中
 まで推奉り。武田捨れ佐佐木に上り。徳威既予の如く。内
 敵の患あり。如何せん。運の拙る。先北と倫。城を擁ふ。と
 死を若たす。守令と我路。又拙。結句。勇気と情。故の事
 とぞ。結着る。差。上。秋の長。秋。下。守。朝。佐。佐。保。の。勇。士
 あり。けれ。初。と。は。より。居。赤。田。と。ま。て。る。又。數。而。春。日。山。又。建。つ。と。こ
 系。勝。へ。傳。云。と。曰。今。小。田。原。の。援。兵。途。中。に。在。り。内。敵。の。勢。は。予。に
 に。不。足。と。も。武。田。の。強。勢。推。法。の。実。は。南。家。の。危。急。と。も
 然。今。計。畧。を。ん。以。東。院。を。避。る。不。如。也。予。に。猶。頼。が。進。退。の
 出。政。人。長。坂。を。全。入。り。約。束。跡。跡。大。坂。介。入。り。道。下。に。往。せ。そ。外
 万。事。の。政。勢。は。予。に。次。才。也。と。承。り。予。に。良。計。を。納。め。た。り

全報殊も。由家の滅亡。予の如く。小田原勢の急せぬ
 うら。予。に。い。ひ。あ。は。し。と。云。け。れ。ば。系。勝。是。を。可。也。と。急。ぎ。入。り。川
 經。原。介。傳。月。下。高。と。召。て。與。志。を。示。し。武。田。家。へ。の。使。者。と。て
 る。と。斗。へ。せ。し。れ。ば。友。人。數。を。承。渡。也。又。飯。山。の。政。事。予
 長。坂。約。束。の。跡。大。坂。介。入。り。上。坂。平。治。る。武。田
 家の。降。又。畏。服。し。勝。頼。の。軍。門。に。降。ん。と。希。ん。義。治。存。室
 小。治。の。内。務。の。為。東。上。所。小。黃。金。一。万。兩。を。降。て。採。り。と。ん。と
 予。上。位。云。公。の。息。女。兼。姫。君。と。系。勝。が。室。家。又。賜。ら。ん。と
 希。冀。す。と。い。は。あ。條。臣。執。柄。入。り。と。云。察。と。盡。く。云。速。友。人。へ。も
 總。絡。の。急。と。不。の。め。り。甘。け。れ。ば。長。坂。約。束。を。守。り。利。勝
 親。又。獨。り。委。細。と。云。上。而。曰。抑。後。佐。より。續。て。系。勝。よ。知。り。既。又。ハ。ケ

武田家己二篇卷之三

國の至り。然と今。高家又畏服。改系と乞ふ。金君の所
 武威の輝がゆせ。爰の家の嫡と幕り。長人のこと。是れ
 後論より。びと二十餘ヶ所。信承とも。塵下
 に。身あり。と。強。又。あ。び。と。云。な。れ。び。務。於。切。件。後。わ。り。と
 越。上。抄。家。の。後。去。入。百。川。信。保。の。あ。人。又。對。面。五。て。支。条。子。細
 不可。有。越。云。出。し。れ。れ。び。使。者。相。附。と。退。急。と。天。日。山。小。政。と
 劫。と。云。上。せ。し。る。ぶ。系。勝。大。に。収。養。ひ。て。正。時。も。ま。く。是。と。可。謝
 と。と。切。折。紙。と。出。され。上。野。と。と。上。の。上。市。孫。去。又。次。り。い
 台。上。て。越。後。布。三。お。駕。黄。金。一。万。兩。と。送。り。れ。け。る。ま。ま
 長。坂。仍。於。あ。人。へ。執。持。の。扶。板。と。して。系。勝。より。黄。金。二。千。五
 百。と。送。り。れ。れ。び。あ。人。は。は。び。を。此。家。足。の。踊。と。事。加。守。加

有るから
 謝す可し

乙極の旨。内。後。と。ぞ。中。け。る。信。約。軍。が。口。去。元。元。龜。三。年。後。云。公。天
 下。に。強。と。を。め。め。あ。い。と。と。か。國。の。金。子。を。集。め。め。ひ。い。れ。後。家。役。出。家
 の。妻。常。役。止。れ。集。ら。れ。て。佛。八。千。三。百。支。集。り。ん。中。劫。定。存。り
 市。川。宮。内。跡。跡。員。他。云。と。終。一。い。ま。又。今。さ。せ。る。り。の。金。子。黄。金
 を。方。四。お。あ。甲。及。及。の。り。あ。代。表。す。の。次。方。也。と。て。形。根。の。限。ら
 ば。形。形。勝。形。遠。又。波。と。お。ひ。飯。山。と。ま。て。甲。及。へ。と。及。波。あ。り
 け。る。甲。及。士。大。お。の。中。あ。も。務。形。が。け。友。の。雨。業。武。乃。の。正。義。又
 あ。び。今。今。い。長。坂。仍。於。が。地。格。と。得。て。敏。又。強。持。の。朝。と。蒙
 せ。る。り。と。と。是。と。憑。是。と。然。形。て。り。正。家。利。又。後。く。後。城。見
 こと。是。と。あ。り。と。肩。と。懸。尊。る。と。ま。ま。り。け。る。け。友。あ。や。信。軍
 攻。之。の。後。長。坂。が。門。あ。り。又。落。首。と。ぞ。わ。て。り

天盟記 二卷之三

十一

勝頼
上家此
使者
對面
の
図



武田勝頼

跡部大炊

長坂釣閑

下
水

列傳巧記二枚扇卷之十二

十三

城の中より、[○]中野の[○]拉も[○]射し、[○]本庄[○]又[○]他[○]古[○]の[○]病[○]死[○]と[○]之[○]後
 十[○]良[○]の[○]討[○]死[○]也[○]。中[○]条[○]丹[○]後[○]守[○]の[○]痛[○]手[○]に[○]く[○]後[○]ぬ[○]ま[○]さ[○]ば[○]。心[○]を[○]屈[○]す[○]
 り[○]の[○]多[○]。累[○]年[○]の[○]患[○]と[○]忘[○]て[○]落[○]う[○]せ[○]。或[○]は[○]名[○]を[○]惜[○]ま[○]ず[○]。春[○]日[○]の
 へ[○]落[○]葉[○]の[○]去[○]も[○]あ[○]け[○]る[○]程[○]也[○]。系[○]勝[○]方[○]の[○]再[○]勢[○]と[○]言[○]ふ[○]。系[○]虎[○]方[○]
 け[○]ん[○]。微[○]勢[○]と[○]成[○]て[○]。市[○]敏[○]本[○]丸[○]榮[○]枯[○]忽[○]地[○]と[○]移[○]り[○]。憲[○]政[○]も[○]系
 虎[○]も[○]移[○]り[○]。市[○]敏[○]本[○]丸[○]榮[○]枯[○]忽[○]地[○]と[○]移[○]り[○]。憲[○]政[○]も[○]系
 林[○]泉[○]寺[○]。淳[○]安[○]寺[○]。寶[○]覺[○]堂[○]の[○]二[○]坊[○]。扱[○]ひ[○]て[○]。先[○]年[○]日[○]の[○]人
 家[○]督[○]ね[○]倫[○]の[○]養[○]也[○]。且[○]然[○]り[○]す[○]れ[○]ども[○]。兄[○]弟[○]の[○]合[○]死[○]ハ[○]。家[○]表[○]徽
 の[○]基[○]と[○]。若[○]し[○]弊[○]又[○]系[○]而[○]。小[○]多[○]家[○]より[○]。小[○]御[○]向[○]ま[○]さ[○]ば[○]。越[○]後[○]ハ[○]上
 校[○]の[○]の[○]ふ[○]あ[○]ま[○]と[○]ら[○]る[○]。理[○]由[○]と[○]止[○]て[○]。和[○]睦[○]也[○]。我[○]ハ[○]。後[○]法[○]の

川内カニ二高巻二二

十六

70

叫喚で突入れれば。比の如条と校が勢も。ふとを討てた程
 方姓又放まると。系勝が皇兵ゆると。益勇威を奮て
 追撃ほど。市敏勢討る者不知敷と校十良も乱軍の中に
 て討死す。小条丹後守味方と吾の引をんと踏止り返す
 引ひると。系勝が勇士。萩田主と。ゆめつと後より。一陰
 ごとく討ちりければ。大刻の小条るれば。些も屈せぬ柄と
 切れて一丸と系拔也。市敏の城を引入り。系勝勢十分に
 勝利をりて。敵の陣營を焼かす。夫日之とを引ひける。小条
 丹後も去る。千夜兵士を多く討せると。而色う。萩田が討る
 陰脈をしく。翌日又あり。市敏の城中にてあまうあけ。これ
 よして。こらぐと。親軍と落す。戦ふと。又利と失ひる。市敏

系勝の

あ

列傳功言二篇卷二二

十五

つれけるほどよ。まゝ取の園陣も終る。皆系勝ふ城とて越後
系中一統群隘あぞ及びけり。亦後領と枚憲政の送鞋の海安
ちふ葬り。法名瑞岩院立山光建と号す。又系虎夫婦は万丸
とも同降安寺あぞ葬送あけりやぞ

武田勝頼と野園平均之事

三良系虎生害。小田系にすければ。小田氏政大不憐り。是
全武田勝頼が愛心よりと。庄敏没落ふ及べり。系虎が生害編
又勝頼の業也。彼黄金ふ服し。み。系勝は合群とらるよ。益
虎狼の如を花。系領ふもると出んべし。何き小甲相
の社末と寒べし。とめて。處又武藏と野の坊。度本。大博又
概を築。群形の概主秩又新とらると。兩守じや。飯之武田

小条確執とありて。諸將攻撃防禦の准儀とあり。是又武田勝
頼へと枚家分送らる。東上野又合て。小条方の然ふと代兵
上野一帯と平均とと。別と出。沼田の城とて。城主
用とて送す。小条治部とて。城代とせられければ。小条方の然
け降先又恐怖して。武田家又修るも。又ハ要害不修。小条
家の後法と待も。あけり。初て勝頼が先願橋の城又ハ軍法
と定。たるか佐を。大わら。是ハ小條と伝書。又甘刑
長根雅楽。向会右を。とね副て。初も小条方の然ふと代
修ん。足控大わら。多田治部とて。初麻傳とて。初
小條左衛門。小山田八左。軍監ふ。小條を。後ちとて。附
られ。初て上野。大略武田家のもの。と。な。け。は。に。

野 野

松田尾強ち。度本
 界とわらんと。千餘人と引く。是煙あり。鉄炮を持
 せ。武威と強くお通りけり。皆武田の儀と見え。呼ば
 言役てより。彼等が波立の足若さよと。松田大助まで
 尾根をけり。由根の若さより。若さうけまば。五甘長根大
 又懐り。さうバ汁略とん。故と磨みりて。松田月が徳と拔下
 と。同鉄炮の者と先よ立て。推出せり。五甘長根何
 奇汁や食けん。小条勢え。向つて。右の方の。山の根
 推さ。郷邑よ火とけ。故と右子よ。故地へ深く。働入
 武田の軍監。小懐。後ち。是と。小懐と総。ふえ。五
 五甘長根。度本筋の。故。あ。か。ら。は。く。右子の。山。へ。推

水 研 軽 石 ス

け。放火仕。何損。故。合。を。と。旗。先。つ。ん。う。ん。は。是。煙
 と。不。掛。は。半。又。後。へ。出。ん。と。の。計。策。手。来。ん。切。て。飯。中
 べくの。男。右。あ。人。合。戦。延。引。致。さ。ば。総。兵。伍。被。と。あ。ら。れ。て
 度本。の。故。と。追。放。さ。れ。い。べ。と。云。控。て。究。竟。の。是。煙。三
 人。又。鉄。炮。と。持。せ。る。と。速。め。て。度。本。の。宿。へ。と。鉄。炮。け。り
 小。懐。左。衛。門。是。と。ん。と。上。総。ち。ふ。向。ひ。て。曰。只。今。を。後。鉄。炮
 を。持。て。進。め。り。五。甘。長。根。等。故。と。道。よ。み。と。自。身
 よ。る。と。入。ん。と。の。支。度。と。ん。と。い。は。右。旗。本。上。りの。檢。使。と。付。せ
 て。の。村。へ。ま。ま。と。く。り。へ。ば。乃。と。信。也。と。鞆。を。揚。て。示。出。せ。を
 候。定。む。む。り。と。て。彼。を。進。左。衛。門。と。付。せ。と。と。中。細。を。あ。し
 け。れ。上。総。ち。が。宿。官。徳。井。戸。甲。斐。と。み。陰。と。て。蒐。出。候。

ま 討 せ 丸 壱

武田上杉

廿二



武田上杉
 替儀
 調
 圖



列傳功記二卷卷之五

九

春の山吹海鳥
 伴舟風雲
 入松花
 言

皇都 小澤東陽著
東都 柳川重信畫

安政二乙卯 孟夏

東都書林

下谷御成通

紙 屋徳 八

浪華書林

心齋橋筋博勞町角

河内屋茂兵衛

曲亭馬琴翁
高井蘭山翁

唐本百回本新譯水滸画傳全九十冊出來

初編

十冊

自卷之壹

至卷之十

- 張天師祈禱瘟病と穰ふ ○洪太尉誤了と妖魔と走らす
- 王教頭延安府ふ走る ○九紋龍史家村と鬧る
- 史大郎夜華陰縣ふ走る ○魯提轄拳と鎮関西と打
- 趙員外重て文殊院と修す ○魯智深大と五臺山を鬧る
- 小霸王酔て銷金帳と入る ○花和尚大と桃花村と鬧る
- 九紋龍赤松林と剪徑を ○魯智深瓦罐寺と火焼
- 花和尚倒と垂楊柳と抜 ○豹子頭誤て白虎堂と入
- 林教頭刺れて滄州道配る ○花和尚大と野猪林と鬧る
- 柴進が門と天下の客と招く ○林冲が棒洪教頭と打
- 林教頭風雪山神廟 ○陸虞候草料場と火焼

貳編

十冊

自卷之十一
至卷之二十

- 朱貴水亭に號箭と施す
- 梁山泊に林冲落草
- 青面獸北京に武と闘ふ
- 赤髮鬼酔て靈官殿に卧
- 吳學究三阮と説く撞籌せむ
- 楊志金銀擔を押送す
- 魯智深二龍山に單打
- 宋公明私に晁天王と放
- 林冲水寨に大に火を供
- 梁山泊の義士晁蓋と尊し
- 閻婆酔て唐牛兒と打
- 閻婆大に鄆城縣と闘ふ
- 林冲雪夜梁山に上
- 汴京城に揚志劔と賣
- 急先鋒東郭に功を争ふ
- 晁天王義と東溪村に認む
- 公孫勝七星小應と義を聚
- 吳用生辰綱を智と以取
- 青面獸宝珠寺に雙奪
- 美髯公智と以捕趙虎と穩守
- 晁蓋梁山に小を泊と奪ふ
- 鄆城縣の月夜に劉唐と走らむ
- 宋江怒て閻婆借と殺す
- 朱仝義と以て宋公明と殺す

三編

十冊

自卷之二十一
至卷之三十

- 横海郡に柴進客と留む
- 景陽岡に武松虎と打
- 其下
- 王婆西門慶に計唆む
- 鄆哥大に授官廳と闘す
- 母夜叉孟州道に人肉を賣
- 武松威安平寨に鎮る
- 施恩重て孟州道に覇る
- 都監張蒙方武松と陥る
- 張都監血を鴛鴦樓に濺
- 武行者酔て孔亮と打
- 宋江夜に小鰲山と看
- 王婆賄と貪て風情と説
- 鄆哥忿ずと茶肆と闘む
- 淫婦武大郎と菜鴉と
- 武松闘て西門慶と殺す
- 武都頭十字坡に張青と遇
- 施恩義と以て快活林と奪ふ
- 武松酔あぐと蔣門神と打
- 武松大に飛雲浦と闘す
- 武行者夜蜈蚣嶺に走
- 錦毛虎義と以て宋江と釋す
- 花榮大に清風寨と闘す

四編

十冊

自卷之五
至卷之十

○鎮三山大は青州道に鬧す ○霹靂火夜瓦礫場を走
○石將軍村店に書と寄 ○小李廣梁山に雁と射
○梁山泊に吳用戴宗と拳 ○揭陽嶺に宋江李俊と逢
○沒遮欄及時雨と追趕 ○船火兒夜潯陽江に鬧す
○及時雨神行大保ふ會す ○黑旋風浪裡白跳し鬧す
○潯陽樓に宋江反詩と吟じ ○梁山泊の好漢法場と切れ
○其下 ○梁山泊に戴宗は假信と傳へしむ
○白龍廟に英雄小義ふ聚 ○宋江智を以て無為軍と取
○張順黃文炳と活捉 ○還道村に三卷の天書と受
○宋公明九天玄女と遇ふ ○假李逵の剪徑單人と劫す
○黑旋風沂嶺に四虎と殺す ○錦豹子小徑に戴宗と逢
○病關索長街に石秀と遇 ○揚雄醉て潘巧雲と罵

五編

十冊

○石秀智を以て裴如海と殺
○病關索大は翠屏山に鬧す ○拏命山火を以て祝家店と燒
○撲天鵬生死の書と雙修し ○宋公明一は祝家莊と打
○一文青單王矮虎と捉 ○宋公明兩祝家莊と打
○解珍解寶双て獄と越 ○孫立孫新大は牢と劫れ
○吳学究連環の計と双用 ○宋公明三は祝家莊と打
○拏翅虎拳を以て白秀英と打 ○美髯公誤て小衛内と失ふ
○李逵殷天錫と打死 ○柴進高唐州に失陷す
○戴宗智を以て公孫勝と取 ○李逵斧を以て羅真人を劈
○入雲龍法と闘めて高廉と破 ○黑旋風穴と探て柴進と救ふ
○高太尉大は三路の兵と興れ ○呼延灼連環馬と擺布す
○吳用時遷とく甲と盗しむ ○湯隆徐寧と賺して山の上しむ

自卷之五
至卷之五

○徐寧教て鉤鎖鎗を使ひし
○宋江大に連環馬を破る
○三山義と聚て青州を打
○衆虎心と同じて水泊小飯す
○吳用金鈴吊掛を懸す
○宋江西岳華山を鬧す
○公孫勝芒碭山を魔を降し
○晁天王曾頭市を箭に中る

六編

○吳用智を以て玉麒麟を賺す
○張順夜金沙灘を鬧し
○冷箭を放て燕青王を救ふ
○法場を却て石秀樓を飛
○宋江が兵北京城を歩
○関勝議して梁山泊を取ん
○呼延灼夜月関勝を賺す
○宋公明雪天に索超を擒ふ
○托塔天王夢中に聖を頭と
○浪裏白跳水上を寛を報す
○時遷火を以て翠雲樓を焼
○吳用智を以て大名府を取
○宋江馬歩三軍を賞す
○関勝水火二將を降す
○宋公明夜曾頭市を歩
○盧俊義史文恭を活捉

十冊

自卷之五
至卷之六

○東平府を以て誤て九文龍を陷
○宋公明義を以て双鎗將を識
○汝羽箭石を飛せて英雄を打
○宋公明糧を棄て壯士を擒
○忠義堂の石碑天文を受
○梁山泊の英雄座次を排す
○柴進花の簪を禁院へ入
○李逵元夜小東京を鬧し
○黒旋風喬鬼を捉
○梁山泊雙て頭を獻し
○李逵壽張を喬を擒り又坐す
○焚香知日と以て擎天柱を撲
○李逵壽張を喬を擒り又坐す

七編

○活閻羅船を倒して御酒を偷じ
○黒旋風詔を捉て欽差を罵
○吳加亮四斗五方の旗を布
○宋公明九宮八卦の陣を排
○梁山泊平面の埋伏
○宋公明再童貫を贏
○十節度使議して梁山泊を取す
○宋公明一高太尉を敗
○劉唐火を放て戦船を焼
○宋公明兩高太尉を敗
○張順鑿て海艸船を漏し
○宋公明三高太尉を敗

十冊

自卷之七
至卷之七十

- 夔青月夜道君小遇
- 梁山泊小金と分て大買市寸
- 宋公明詔と奉て大遼と破る
- 宋公明の兵蘄州城と歩
- 宋公明夜益津関と度
- 宋公明大獨鹿山小戦ふ
- 宋公明大幽州小戦ふ
- 顔統軍陳小混天の象と列
- 宋公明夢小玄女の法と授る
- 宿太尉恩と頒て詔と降寸
- 双林鎮小燕青故に遇
- 盧俊義黑夜小敵と賺と
- 戴宗計と定て蕭讓と賺
- 宋公明夥と全とく招安と受
- 陳橋驛と決と滴て小卒と斬
- 盧俊義大玉田縣小戦ふ
- 吳学究智とめて文安縣と取
- 盧俊義が兵青石峪小陷
- 呼延灼力番將と擒め
- 宋公明陳と破て功と成
- 五臺山小宋江泰禪に
- 宋公明の兵黄河と渡る
- 軍威と振小李廣の神箭

八編
十冊

自卷之六
至卷之八十

- 蓋郡と打智多星の密籌
- 宋江兵と兩路に分
- 李逵が暴衆人と陷
- 喬道清の術宋江と破
- 入雲龍の兵百谷嶺と圍
- 瓊英處女先鋒と倣
- 花和尚縁纏井と解脱に
- 張清瓊英双功と建
- 墳地と謀て陰險逆と産寸
- 王慶女姑小因て官司小嘆
- 張管營妻の弟小因て身と喪ふ
- 喬道清風と同一賊寇と焼
- 李逵夢小天地と鬧寸
- 関勝義とめて三將と降に
- 宋公明の忠后土と感と
- 幻魔君の術五龍山と窟
- 陳瓘諫官安撫と陞
- 張清瓊英小配且郎梨と擧
- 混江龍水と大原城と灌
- 陳瓘宋江同と捷と奏に
- 春陽と踏て妖艶奸と生と
- 龔端龔正配軍王慶と師と
- 房山寨と双と舊強人と併
- 書生談笑と強敵と退と

浪花 好華堂主人著編

大伴金道忠孝圖會

前篇五冊 後篇五冊

此書天智天皇御宇、首途國(畿)の兵と遣はれ、更(ま)に首(もと) 狂(くる)大臣(だいじん)燈臺(とうだい)鬼(おに)成(なり) 謂(い)大伴(おほなつとも)真鳥(まどり)兄(あに)と云(い)ふ家(いへ)國(くに)と押(お)鎖(さ)せ 奸(こ)惡(あく)大友(おほとも)白(しろ)毛(け)子(こ)淨(じやう)見(み)原(はら)天(てん)皇(こう) 御(ご)合(あ)戦(せん)の 次第(しだい)金(かね)道(みち)の生(なま)ま(ま)白(しろ)虫(むし)水(みづ)鳥(とり)の忠(ちゆう)義(ぎ)雅(みやび)明(あきら) 乃(な)義(ぎ)心(こころ)真(ま)鳥(とり)の香(か)粉(こな)金(かね)道(みち)万(ま)苦(くる)凌(しの)ぎて又(また) 乃(な)仇(あ)と復(たが)へ 本(ほん)領(りやう)小(こ)安(やす)堵(と)せ 追(お)ひの奇(き)更(また)と 洩(あ)げずか(か)りて 実(じつ)録(ろく)か(か)りて勿(な)論(ろん)大(だい)僧(そう)加(か) 善(ぜん)と勸(すす)め惡(あく)と懲(おそ)しむ使(つか)ひと面(おも)白(しろ)の祈(いの)り也(なり)

同上

扶桑皇統記圖會

前篇六冊 後篇七冊

此書八(や)代(だい)天(てん)皇(こう)平(へい)代(だい)天(てん)武(ぶ)天(てん)皇(こう)の御(ご)治(ち)世(せい) 醍醐(たいご)天皇(てんこう)の御(ご)年(ねん)追(お)ひの全(ぜん)事(じ)の根(ね)元(もと)等(とう) 院(いん)の草(くさ)創(そう)代(だい)の人物(にんぶつ)の行(ぎやう)条(じょう)と紀(き)と所(ところ)謂(い) 役(やく)行(ぎやう)者(しや)安(やす)部(ぶ)仲(なかつ)丸(まる)吉(きち)備(び)大臣(だいじん)衣(い)通(と)姫(ひめ)光(こう)明(めい) 皇(こう)后(こう)良(ら)弁(べん)僧(そう)正(せい)弓(ゆみ)刺(さ)道(みち)鏡(かがみ)惠(ゑ)見(み)押(お)勝(かつ)中(ちゆう) 將(しょう)姫(ひめ)傳(でん)教(きやう)大(だい)師(し)弘(こう)法(ぽう)大(だい)師(し)田(でん)村(むら)丸(まる)浦(うら)嶋(じま) 子(こ)小(こ)野(の)皇(こう)在(ざい)原(はら)行(ぎやう)平(へい)兼(かね)平(へい)小(こ)野(の)小(こ)野(の)僧(そう) 正(せい)通(と)照(しょう)管(くわん)通(と)相(さう)其(その)外(がい)古(こ)人(にん)の實(じつ)傳(でん)と探(たん) 繪(え)圖(ず)録(ろく) 赤(あか)く圖(ず)画(が)と御(ご)重(ちゆう)宝(ほう)の書(しよ)也(なり)

新増補

萬代新引節用集大成

萬(まんだい)代(だい)新(しん)引(ひ)節(せつ)用(よう)集(しゆ)大(だい)成(せい) 薄(うす)茶(ちや)抄(しやう)卷(くわん)三(さん)冊(さく)小(こ)笈(ふ)指(さし)者(しや)表(へ)紙(し)下(か)りて 至(いた)極(ごく)奇(き)麗(れい)に仕(し)立(た)れ上(うへ)をきびく にく甚(いた)く甚(いた)く便(べん)利(り)に及(およ)ぶ所(ところ)なり

此(この)節(せつ)用(よう)集(しゆ)を字(じ)數(すう)夥(た)くおねわづら文字(もんじ)と尋(たづ)ねるに仮(かり)名(な)教(きやう)の 早(はや)引(ひ)く。其(その)中(ちゆう)に天(てん)地(ち)神(しん)佛(ぶつ)官(くわん)位(い)人(にん)倫(りん)衣(い)食(じき)器(き)飲(いん)草(そう)木(ぼく) 生(せい)疑(ぎ)姓(せい)氏(し)言(げん)綴(ずい)等(とう)の部(ぶ)分(ぶん)ありて。仮(かり)名(な)附(つ)けの教(きやう)字(じ)家(け)に とて改(か)め。又(また)新(しん)引(ひ)字(じ)と階(か)書(しよ)時(じ)の傍(わら)の真(ま)字(じ)多く 筆(ひ)畫(さく)の類(るい)をてれ。和(わ)漢(かん)官(くわん)職(しやく)此(こ)名(な)並(なら)び規(ぎ)及(およ)堂(どう)上(じやう)方(かた) 諸(しよ)卿(きやう)大(だい)名(な)衆(しゆ)の部(ぶ)毎(まい)小(こ)引(ひ)言(げん)領(りやう)國(くに)城(じやう)主(しゆ)等(とう)は別(わか)れ名(な)處(ところ)跡(あと) 神(かみ)社(やしろ)佛(ぶつ)圖(ず)悉(しつ)く國(くに)所(ところ)附(つ)き本(ほん)系(けい)統(とう)の異(い)名(な)をてれ

孫文性氏の尚時何國緒侯の歩藩中に有事と巨
細小記。卷末に緒澄文手紙之案文男女名願相性
集代六十箇諸玉一宮都舎此地日本官用敬名其外
重寶の度數多衆既小僕土字書少凡四百三十余字
く。悉く記憶する者稀あり。本朝の熟字佐治小至て々
夥多事い。若又取扱ふ文字と俄忘する事多。茲今此
互代早引を字數拾一万余紙頁八百二十余丁あり成文字に
ても漏り集録する古今未發海内益双の節用集抄を

三都先緒國社會書林行を寄つて請求して抄下ん

新刺 増補 萬代早引節用集大成 全二冊

節用集の善本數枚を並に便利成書變つる小物也。雖然其節用集の善本數枚を並に便利成書變つる小物也。雖然其
不足有りて隔香撥拜四遺憾少か。此及官田先生丹藏苦心乃力と積く其
不足雅俗乃文字可輯録。尚諸人日用の支と數多増加。新板大改訂。敬請君也
右置す。又高覽と合ん支。布而已。

薄葉摺出来仕居に同抄用向奉希上依

増續 王代一覽 正編 廿五冊 初版 十冊

此書を人皇二百八代後陽成院天皇天正十五年、一百九代後水尾院天皇元和三年迄
三十年此同の治亂更政乃沿革名人達士詩歌連繼香茶若僧知識の傳記神社
井園の興廢金銀米錢。其差分る。凡て之を編とこと也。但原書ハ其所
筆ざり。乃抑菴先生盡く其本書刊利絶。一りをも一頁一白と胡亂
み。此を右考一考古の小史と名し。續編ハ元和三年よりと知を

開卷 驚奇 俠客傳第五集 善知鳥安方忠義傳

此書第四集四十回より後曲亭翁の他
 依之復委の赤亭翁其篇の續を
 考考へく依意不遠ん守編述を
 五集五冊此を以て刊行を六集を既
 脱稿日々を述べたを述れり
 著とて一希く四巻に居る本集
 替らけ高評公賜くといふ

右の書初編は四冊後編四冊、上東京
 翁の編輯より、世に小説市
 面白ければ他と殊なり、さうも結局に至
 べし、他者物段あり、さうも官書
 此を依て此書は赤亭翁先主の編五冊
 成續り出さるると併行して遺憾ハ
 人々著日一巻の布く、四巻に居る本
 篇小ぢ、高評と場入軍一、六次編
 数年の間に全三巻に成速く云

甲陽軍鑿金合巻拾冊

石武田全書より依て二代の戦功を記し、陣營
 兵伍の異國と稱、本邦兵の長官、兵を記し、

浪華書肆

群玉堂主人誌

書 林

京都寺町通佛光寺	河内屋藤四郎
江戸日本橋通壹丁目	須原屋茂兵衛
同 貳丁目	山城屋佐兵衛
同 貳丁目	須原屋新兵衛
同 四日市	山城屋政吉
同 本石町十軒店	英 大 助
同 下谷御成道	英 丈 藏
同 大傳馬町貳丁目	丁子屋平兵衛
同 芝神明前	岡田屋嘉七
八坂齋橋通本町角	河内屋藤兵衛
大坂齋橋筋博愛齋	河内屋茂兵衛

